



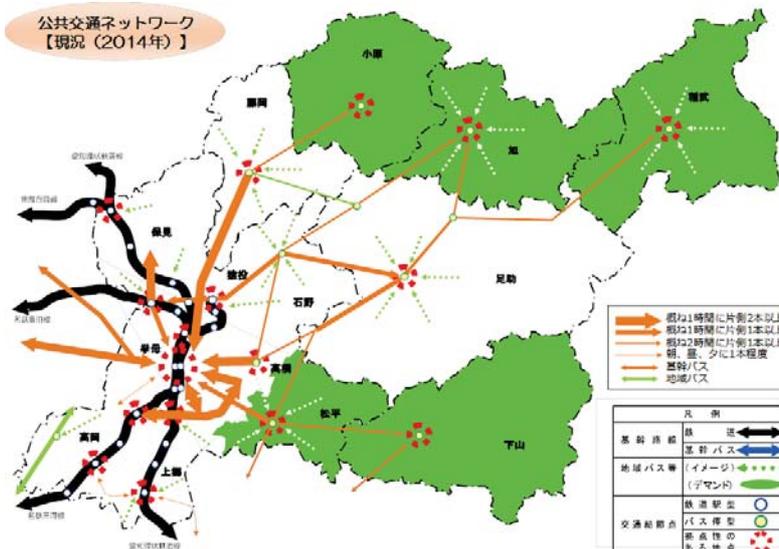
超高齢社会へ向けた持続可能な 地域公共交通のあり方について



豊田市長 太田稔彦

1 豊田市の公共交通ネットワーク

- 平成17年の7市町村合併による市域の広大化 (918km²)
- 平成19年度から多核ネットワーク型都市構造の構築を図るため公共交通網を整備



- 鉄 道：都市形成の骨格
⇔
- 基幹バス：鉄道を補完し市内各拠点を広域に結ぶ
<12路線運行>
- 地域バス：地域内の「フィガー」として地域特性に応じ運行
<15地区で運行>

<豊田市のバス>
運行開始から10年となり、市民生活に不可欠なバスに成長
H28年度 バス利用者数
262万人 (9年連続増加)

2 豊田市の地域公共交通をめぐる課題

(1) 超高齢社会到来に向けた対応が必要

- 免許証の自主返納など自家用車以外の移動手段を必要とする人の増加
- バス停までの移動が困難な人の増加
- 運転手不足による路線維持の困難



- 高齢者が利用しやすい地域交通手段の検討（ラストワンマイルへの対応）
- 地域で移動を支え合う仕組みづくり

(2) 持続可能な地域公共交通の確立に向けた対応が必要

- 人件費高騰による運行経費の増大
⇒市財政負担増
- 中山間地域での利用率の低迷
⇒市民生活のため路線維持が必要



- バス運行をめぐる生産性の向上（収益アップを目指す取組の実施）

3 豊田市での取組（あすけあいプロジェクト）

【目的】

中山間地域におけるモビリティ向上、外出促進、健康維持などを総合的に支援

【実施主体】 名古屋大学、東京大学、足助病院、豊田市

【実証期間】 平成28年度～平成30年度

【移動の取組】

高齢者が移動しやすい仕組みとして2つの新たな取組を実施

① タクシー相乗りシステム（タクシム）

地域のタクシー事業者と連携し、相乗りマッチングシステムを構築（相乗りにより安価に移動可能）



② 住民の共助による移動支援（あすけあいカー）

地域住民のボランティア輸送による高齢者の移動支援



4 豊田市での取組（あすけあいプロジェクト）



5 豊田市での取組（あすけあいプロジェクト）

●実証を通しての課題

①タクシー相乗りシステム（タクシム）の課題

手数料を仲介者（あすけあいPJ推進協議会）が収受するため、協議会に対し旅行業の登録を求められた。

タクシー相乗りを促進するため、仲介者（協議会）が旅行業を登録しなくても、仲介手数料を収受できるようにする

②住民の共助による移動支援（あすけあいカー）の課題

現行では、ガソリン代相当分のほか金銭を収受できない。

ボランティア輸送を促進するため、道路運送法上の「許可・登録を要しない輸送」について、ガソリン代等の他に一定の金額を収受できるようにその範囲を明確化する

現行では、1トリップ毎に旅行傷害保険を掛けている。

ボランティア輸送向けの新たな保険商品開発の働きかけをする

【高齢者の移動手段の確保に関する検討会 中間とりまとめH29.6月】で方向性が示された。

6 豊田市での取組（生産性向上）

（1）宅配物貨客混載実証

コミュニティバスにおける全国初の
宅配便輸送の実施

（平成29年8月上旬～実施予定）

【目的】

- ・収入確保による路線の維持



（2）路線バスの観光、レジャーでの活用

自転車を積載したサイクリングプラン展開

第1弾 折りたたんだ状態で積載（H29年度）

第2弾 そのまま積載（今後検討）

【目的】

- ・観光資源、自然環境を生かした利用促進



7 豊田市での取組（生産性向上）

●バスへの貨物積載に関する課題

積載方法や車両改造など専門的な知識が自治体では不足し
おり、事業実施に向けた国の支援が必要

コミュニティバスにおける貨客混載については、中部運輸局の「みんなの交通応援プロジェクト Ex」の第1号事業として選定。事業実施に向けた助言、支援をいただき、仕組みづくりがスムーズにできた。